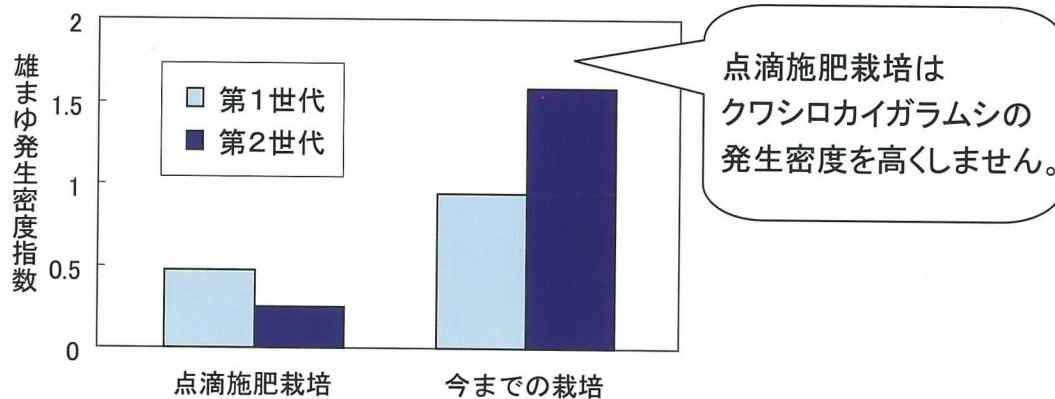
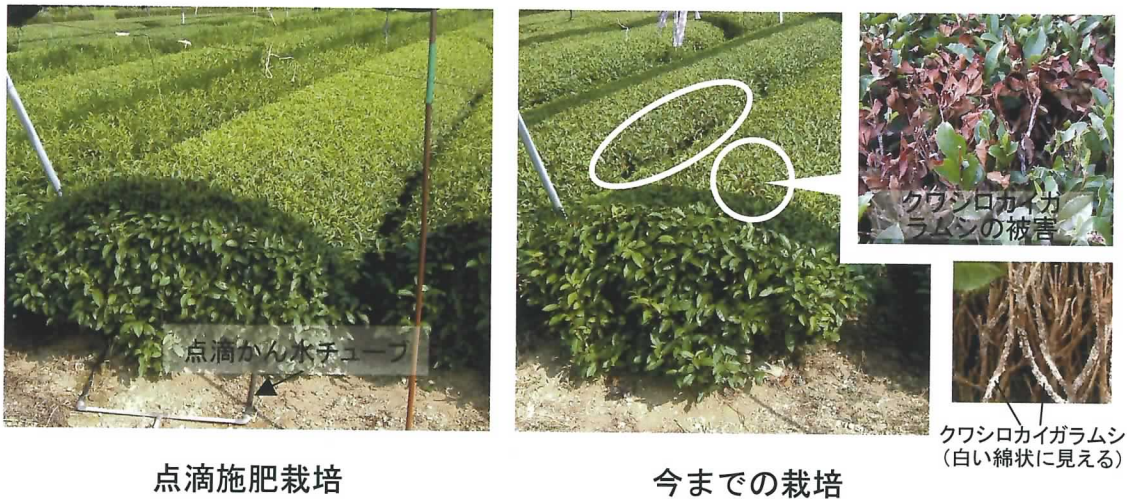


## 茶の点滴施肥栽培はクワシロカイガラムシ発生も抑制



クワシロカイガラムシ発生状況

クワシロカイガラムシは、①体はロウ物質で覆われていて、農薬が効きにくい ②茶樹冠内に寄生するため見つけにくい ③防除時期が限られ、散布時期の判定が難しいことなどから、農家にとって最も厄介な害虫です。

本場で開発した点滴施肥栽培は、ク

ワシロカイガラムシの発生を抑えることがわかりました。この栽培法は、収量品質の向上と施肥量の削減を同時に実現できますが、なぜ害虫発生を抑制するのかについては、今後の研究で明らかになっていきます。

(東三河農業研究所)